

線形代数(木1)の期末試験の略解

2月6日実施

配点について 基本的には各大問ごとに 20 点ずつですが、もう少し詳しくは以下のような予定です。

問題 1 20 点, 問題 2 20 点 (そのうち対角化に 10 点), 問題 3 5 点 + 10 点,

問題 4 10 点 + 10 点, 問題 5 5 点 + 10 点 + 10 点

中間点は答案のできに応じて、5 点きざみで出します。

● 成績について: 合格者の総数に対して, A, B, C の人数がそれぞれ約 $40 : 40 : 20$ になるようにします。(これは同学科の別の組とそろえています。)

問題 1 A の固有多項式を計算すると

$$|tE - A| = \begin{vmatrix} t+2 & -1 & -4 \\ 3 & t-2 & -3 \\ 1 & -1 & t-3 \end{vmatrix} = (t+1)(t-2)^2$$

と因数分解されるので, 固有値は $2, -1$ である。それぞれの固有値に属する固有空間を求めると

$$W(2; A) = \{s^t(1, 0, 1) \mid s \in \mathbf{R}\}, \quad W(-1; A) = \{s^t(1, 1, 0) \mid s \in \mathbf{R}\}$$

と求まる。よって, 固有空間の次元の和は 2 で, 全体空間の次元 3 に満たない。教科書の定理 5.4.2 (p. 108) により, A は対角化できない。

問題 2 B の固有多項式を計算すると

$$|tE - B| = \begin{vmatrix} t-3 & -1 \\ -2 & t-2 \end{vmatrix} = \dots = (t-1)(t-4).$$

と因数分解されるので, 固有値は $1, 4$ である。固有値 1 に属する固有ベクトルは $(E - B)\mathbf{x} = 0$ を解いて, ${}^t(1, -2)$ の定数倍と求まる。また固有値 4 に属する固有ベクトルは $(4E - B)\mathbf{x} = 0$ を解いて, ${}^t(1, 1)$ の定数倍と求まる。よって, この 2 本の縦ベクトルを並べたものを P と置くと

$$BP = B \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 1 \end{pmatrix} = \left[B \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \end{pmatrix}, B \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} \right] = \left[1 \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \end{pmatrix}, 4 \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} \right] = P \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 4 \end{pmatrix}.$$

P と P^{-1} が隣同士打ち消しあうことを使うと

$$B^n = \left[P \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 4 \end{pmatrix} P^{-1} \right]^n = P \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 4 \end{pmatrix}^n P^{-1} = P \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 4^n \end{pmatrix} P^{-1}$$

となる。多少面倒くさいが, この右辺を露骨に計算すると

$$B^n = \frac{1}{3} \begin{pmatrix} 1 + 2 \cdot 4^n & -1 + 4^n \\ -2 + 2 \cdot 4^n & 2 + 4^n \end{pmatrix}$$

と求まる。

問題 3 (1) 基になっている方法はいろいろある．例えば $\{a_1, a_2, a_3\}$ を並べて作る 3×3 行列が「ランク 3 である」とか、「行列式が 0 でない」ことを示せばよい．

(2) シュミットの直交化法を露骨に適用する問題．まず

$$u_1 = \frac{1}{\|a_1\|} a_1 = \frac{1}{3} \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \\ 2 \end{bmatrix}.$$

次は

$$b_2 = a_2 - (a_2, u_1)u_1 = a_2 + \frac{1}{3}a_1 = \frac{1}{3} \begin{bmatrix} -4 \\ 2 \\ 5 \end{bmatrix}, \quad u_2 = \frac{1}{\|b_2\|} b_2 = \frac{1}{3\sqrt{5}} \begin{bmatrix} -4 \\ 2 \\ 5 \end{bmatrix}.$$

最後は

$$b_3 = a_3 - (a_3, u_1)u_1 - (a_3, u_2)u_2 = a_3 + \frac{2}{3}a_1 + \frac{2}{3}a_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad u_3 = \frac{1}{\|b_3\|} b_3 = \frac{1}{\sqrt{5}} \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \end{bmatrix}.$$

問題 4 X と E は交換可能 (つまり $XE = EX = X$) なので, X の多項式は普通多項式と同様に計算してよいことに注意せよ．

(1) X の固有多項式は

$$|tE - X| = \begin{vmatrix} t-1 & -1 & 0 \\ 0 & t-1 & -1 \\ 0 & 0 & t-1 \end{vmatrix} = (t-1)^3 = t^3 - 3t^2 + 3t - 1$$

なので, ケーリー・ハミルトンの定理 5.4.2 (教科書 p. 108) により, 上の式で形式的に $t = X$ と置いた次の式が成り立つ．したがって, (1) の答えは $(p, q, r) = (-3, 3, -1)$ である．

$$(X - E)^3 = X^3 - 3X^2 + 3X - 1 = O.$$

(2) 多項式の割り算を用いても計算できるがやや煩雑になるので, ここでは 2 項定理を用いる．(上に書いた理由で 2 項定理を適用できる．) $(X - E)^3 = O$ に注意すると

$$\begin{aligned} X^{11} &= \{(X - E) + E\}^{11} = \sum_{k=0}^{11} {}_{11}C_k (X - E)^k E^{11-k} \\ &= {}_{11}C_2 (X - E)^2 + {}_{11}C_1 (X - E) + {}_{11}C_0 E \\ &= 55 \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} + 11 \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 11 & 55 \\ 0 & 1 & 11 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \end{aligned}$$

問題 5 (1) 固有多項式は以下のように求まる .

$$|tE - A| = \begin{vmatrix} t-4 & 1 & -1 \\ 1 & t-4 & 1 \\ -1 & 1 & t-4 \end{vmatrix} = \dots = (t-3)^2(t-6).$$

よって, 固有値は 3 と 6 である .

(2) 固有値 3 に対応する固有空間は $3E - A$ の核である . $3E - A$ は

$$3E - A = \begin{pmatrix} -1 & 1 & -1 \\ 1 & -1 & 1 \\ -1 & 1 & -1 \end{pmatrix} \longrightarrow \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

と簡約化できるので, 固有空間の基として (例えば) $\{ {}^t(1, 1, 0), {}^t(-1, 0, 1) \}$ が求まる .

固有値 6 に対応する固有空間は $6E - A$ の核である . $6E - A$ は

$$6E - A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 1 & 2 & 1 \\ -1 & 1 & 2 \end{pmatrix} \longrightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

と簡約化できるので, 固有空間の基として (例えば) $\{ {}^t(1, -1, 1) \}$ が求まる .

(3) (2) で求めた固有空間の基をそれぞれ正規直交化して

$$\left\{ \mathbf{p}_1 := \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \mathbf{p}_2 := \frac{1}{\sqrt{6}} \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \\ 2 \end{bmatrix} \right\}, \quad \left\{ \mathbf{p}_3 := \frac{1}{\sqrt{3}} \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix} \right\}$$

を作ると, $\{ \mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3 \}$ は \mathbb{R}^3 の正規直交基になっている . そこで

$$P := [\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3]$$

とおけば, P は直交行列であり, お馴染みの議論により

$$P^{-1}CP = \begin{pmatrix} 3 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 0 \\ 0 & 0 & 6 \end{pmatrix}$$

と対角化できる .